

東京財団主催 読売新聞社後援
公開シンポジウム)

「日本と国連 - より良き未来のために」)

2007年12月6日 18:30~20:30

日本財団ビル2F (東京都港区赤坂1-2-2)

<ゲストスピーカー>

ジャン＝マルク・クワコウ (Jean-Marc Coicaud)

1957年フランス生。ニューヨーク国連本部・国連大学事務所長。同大学教授。国連システム学術評議会(ACUNS)理事、仏政治刷新財団顧問も務める。1996-2003年、東京の国連大学で「平和とガバナンス研究プログラム」上級研究員。ブトロス・ブトロスガリ国連事務総長(任期1992-96年)のスピーチライターとしても活躍した。パリ大学文理学部ソルボンヌで政治法学博士号、パリ政治学院より国家博士号を取得。著書に*Politics and Legitimacy: A Contribution to the Study of Political Right and Political Responsibility* (Cambridge University Press 2002)、邦訳『政治的正当性とは何か』(藤原書店)他。2007年5月、日本の読者向けに自著を特別編集した『国連の限界/国連の未来』(池村俊郎・駒木克彦訳、藤原書店)を出版。

<コメンテーター>

北岡 伸一 (きたおか・しんいち)

1948年生。東京大学教授。東京大学法学部卒、同大学院法学政治学研究科博士課程終了。立教大学法学部助教授などを経て、1997年から現職。小泉首相の私的諮問機関「対外関係タスクフォース」メンバー(2001-04)、国連代表部次席大使(2004-06)などを歴任。現在は「日中歴史共同研究委員会」の日本側座長、「安全保障の法的基盤の再構築に関する懇談会」メンバーも務める。2007年4月より東京財団主任研究員として「国連研究プロジェクト」など外交・安全保障分野の研究を統括している。著書に『国連の政治力学 - 日本はどこにいるのか』(中公新書、2007)、『清沢冽』(中公新書、1987。増補版2004。サントリー学芸賞)など多数。

<モデレーター>

池村 俊郎 (いけむら・としろう)

1951年生。読売新聞東京本社調査研究本部主任研究員。東京大学仏文学科卒。読売新聞入社後、バイルート、パリ各特派員。1995-98年ワシントン支局次席、1999-2004年パリ支局長。著書に『戦争とパリ - ある二人の日本人の青春1935-45年』(彩流社、2003)他。